

心房細動の早期発見を目的とした 「心電図記録による受診勧奨モデル」

特集

～秋田県薬剤師会が取り組む、調剤薬局における心電計付き上腕式血圧計の活用状況と今後～

- ・見過ごしやすい心房細動、調剤薬局と連携して早期発見へ
- ・地域に密着した薬局だからこそできる、疾患啓発や手軽な心電図記録
- ・チェックシートや心電図記録の結果をもとに薬剤師が啓発
- ・さらなる普及・啓発と主治医がいない人への受診勧奨が今後の課題

TOPICS

「健康寿命日本一」をかかげる秋田県～生活習慣改善の県民運動を展開

COLUMN

日常に潜む不整脈「心房細動」とは

Keywords: ● 心房細動の早期発見 ● 脳・心血管疾患の啓発 ● 心房細動の疾病啓発 ● 心電計付き上腕式血圧計
● 心房細動の認知度 ● 生活習慣病の予防 ● 心房細動の早期発見・治療

特集

心房細動の早期発見を目的とした「心電図記録による受診勧奨モデル」

～秋田県薬剤師会が取り組む、調剤薬局における心電計付き上腕式血圧計の活用状況と今後～

見過ごしやすい心房細動、薬局と連携して早期発見へ

● 心房細動の早期発見 ● 脳・心血管疾患の啓発

心房細動は、脳梗塞の原因ともなる不整脈の一種です。2020年の日本の推定患者数は100万人超^{*1}、65歳以上で有病率が高まるため、今後も高齢化とともに増加すると想定されています。脳梗塞をはじめとした脳・心血管疾患予防のためにも、心房細動の早期発見・早期治療に向けた取り組みが求められています。心房細動の約4割は、自覚症状がないといわれています^{*2}。また症状が持続しないケースもあるため、年1回程度の健康診断での心電図記録では発見しづらく、診断につながらないケースも多いと考えられています。特に高血圧患者では、高血圧ではない人と比べて心房細動を併存しやすく、「高血圧患者の10～20%は心房細動を有する」といわれています^{*3}。

「脳・心血管疾患発症ゼロ」を目指すオムロン ヘルスケアでは、高血圧患者の心房細動の早期発見のため、血圧を測るときに心電図を同時に記録できる心電計付き上腕式血圧計HCR-7800Tを開発。調剤薬局や薬局併設のドラッグストアと連携し、来局時に希望した人への心電計付き上腕式血圧計HCR-7800Tを使った心電図

記録を開始しました。自覚症状がある場合や、「心房細動の可能性」が検出された場合は薬剤師が医療機関の受診を勧めます。これが一般社団法人スマートヘルスケア協会と共同で取り組む「心電図記録による受診勧奨モデル」です。

心房細動という不整脈があることや、心房細動が脳梗塞など命に関わる疾病の危険因子であることを多くの人に知ってもらうことなど、心房細動によって引き起こされる脳・心血管疾患の啓発を行うことも「受診勧奨モデル」の大きな目的です。

^{*1} Ohsawa M, et al., J Epidemiol 2005;15:194-196

^{*2} Senoo K, et al. Circ J. 2012;76(4):1020-1023

^{*3} Y. Yotov, Journal of Hypertension Vol 34, September 2016, e204.

受診勧奨モデル イメージ図



地域に密着した薬局だからこそできる、疾病啓発や手軽な心電図記録

● 心房細動の疾病啓発

「心電図記録による受診勧奨モデル」は、全国の薬剤師会やチェーン薬局と連携して順次、拡大しています。その一つが秋田県薬剤師会です。

秋田県薬剤師会では2022年6月より、同モデルを導入し、秋田県医師会の監修のもと「薬局来局者に向けた心電計付き上腕式血圧計を用いた健康啓発事業」(*4)をスタートしました。同県は、脳・心血管疾患による死亡率が全国的に見ても高く、その予防に県をあげて取り組んでいます(3ページTOPICS参照)。一般社団法人秋田県薬剤師会常務理事の佐藤一実さんは「県にとって長年の課題である脳・心血管疾患の予防のため、心房細動の啓発活動を行うことは、薬局の重要な健康サポート機能と考え、本事業を企画しました。」と話します。

「脳梗塞に関しては県民の皆さんの認知度が高いのですが、その原因となる心房細動はよく知られていません。今回の取り組みの最大の目的は、心房細動の啓発を図ることです。薬局は地



佐藤 一実 氏

一般社団法人秋田県薬剤師会
常務理事

域の人たちの生活に密接に結びついており、病院にかかっていない人もたくさん訪れます。幅広い人にアプローチして疾病啓発を行うことができるのが、薬局で「受診勧奨モデル」を展開する大きなメリットです。」

同事業に参加する約30の健康サポート薬局(*5)の店頭で心電計付き上腕式血圧計HCR-7800Tを設置し、同モデルの実施に取り組んでいます。

*4 心電計付き上腕式血圧計を用いた「心電図記録による受診勧奨モデル」が秋田県薬剤師会で開始 <https://www.healthcare.omron.co.jp/corp/news/2022/0601.html>

*5 健康サポート薬局：厚生労働大臣が定める一定基準を満たしている薬局として、かかりつけ薬剤師・薬局の機能に加えて、市販薬や健康食品に関することはもちろん、介護や食事・栄養摂取に関することまで気軽に相談できる薬局

チェックシートや心電図記録の結果をもとに薬剤師が啓発

● 心電計付き上腕式血圧計

薬局では、まず来局者に啓発チラシを配布し、心房細動が脳梗塞など脳・心血管疾患の危険因子であることや、その場で簡単に心電図を記録できることを説明。年齢や生活習慣、既往歴などから心房細動を発症する可能性が高いと思われる場合お声がけを行い、希望した人にはチェックシートによるリスクチェックと、心電計付き上腕式血圧計による心電図記録を行います。そして、

チェックシートおよび心電図記録、解析メッセージから心房細動の可能性を確認した場合には、薬剤師が受診勧奨を行っています。本人の同意の下、トレーシングレポート(*6)を作成することもできます。「使用している心電計付き上腕式血圧計は本体の電極部分を指で触れるだけで心電図を記録できます。服を着替えたりの必要がないので、勤めやすく指導もしやすいと思います。」

*6 トレーシングレポート：保険薬局で患者より聞き取った、緊急性は低いものの担当医師へ情報提供すべきと考えられる事項を伝えるためのレポート

【使用イメージ】



機器上面の電極に親指を、側面の電極に人差し指をあて、心電図を記録する。手の大きさや指の形状を問わず、誰が測っても医師の診断に役立つ心電図(右)を記録することが可能。

※画像はイメージです

2022年6～11月の6カ月間で631名が心電図を記録、うち67名に受診勧奨を実施しています。

「心電図を記録した結果、心房細動の可能性が検出されたのは7名、なかには自覚症状のない方もいました。例えば70歳代男性、年に1回健診を受診しているという方が心房細動の可能性という結果となり、かかりつけ医に相談するよう指導した事例がありました。その方は病院で心電図検査を受けたところ異常はなく、現在、経過観察中だそうです。

かかりつけ医がいる場合は薬剤師も介入がしやすく、スムーズな受診につながる傾向にあります。」

2022年6～11月(6カ月間)の実施状況

- | | |
|-----------------|------------------|
| ●チラシ配布数／1300 | ●受診勧奨数／67 |
| ●チェックシート回収数／455 | ●「心房細動の可能性」検出数／7 |
| ●心電図記録者数／631 | ●トレーシングレポート提出数／2 |

受診勧奨症例(自覚症状のない健診受診者)

70歳代男性

【既往歴】 高血圧、糖尿病、高コレステロール血症、高尿酸血症
【健診受診状況】 年1回受診
【自覚症状等】 なし
【測定結果】 心房細動の可能性
【受診勧奨】 自覚症状はないが、かかりつけ医に相談するよう指導
【その後の経過】 病院で心電図測定したが異常なし、現在経過観察中

さらなる普及・啓発と主治医がいない人への受診勧奨が今後の課題

● 心房細動の認知度

秋田県薬剤師会では、同事業に参加した薬局に対してアンケート調査を行い、今後の課題を検討しています。

「心房細動については『知らない人が多かった』『心房細動という言葉を知っていても、脳梗塞のリスクについては認識がなかった』などの回答があり、認知度が低いことがわかりました。」

心電図の記録は、「大事だと理解いただけた方は多く、来局のたびに記録する方もいる。」など関心が高まってきたという声もある一方で、「血圧ほどの関心はない。」「話は聞いてくれるが、心電図の記録は断る人が多かった。」といった声もあり、さらなる啓発活動の必要性が浮き彫りとなりました。また受診勧奨について

は、主治医がいない場合にどのように受診につなげるか、また不安を感じる人への対応などが課題として挙げられています。

「本事業に取り組んでよかったこととしては、『お薬以外の話題で来局者様と会話するきっかけとなり、その方の背景を深く知ることができた』『健康診断をしばらく受けていないという方に対して健康診断への関心を高めるきっかけになった』などの声が聞かれました。『受診勧奨モデル』は薬局にとって、来局者とのコミュニケーションのきっかけになり、健康相談をされることが増えたり、健康診断の受診をおすすめしたり、健康サポート薬局としての機能を発揮できる機会につながっていると考えています。」

参加した薬局へのアンケート調査より

Q.心房細動や、心房細動が引き起こす疾病リスクについてはどのくらいの方が認識されていましたか？

- ・心房細動という言葉を知らない人が多かった。
- ・心房細動という言葉は知っていても、その状態や脳梗塞との結びつきについてはあまり知られていないようだった。

Q.説明の際に有用だった声かけの内容や工夫はありますか？

- ・「脳梗塞の予防のための心電図記録です」といった声かけで関心を持っていただいた。
- ・「数分で記録できる心電計ですよ」など測定に時間がかからない旨を伝えると比較的スムーズだった。

Q.受診勧奨、トレーシングレポート作成から受診まではスムーズにつながりましたか？課題となるプロセスはありましたか？

- ・「心房細動の可能性」が検出されたとき、来局者様を不安にさせず受診につなげるプロセスが重要だと思う。

Q.日常的に心電図の記録に対する関心は感じられましたか？

- ・血圧を測るように、普段から心電図を記録することが大事と理解いただけた方は多く、来局のたびに記録する方もいて関心が高まってきている。
- ・血圧ほどの関心はないと感じる。

Q.「心房細動の可能性」検出時の患者さんの様子はどのようなもので、どのようなサポートを行いましたか？

- ・やや動揺があったが、幸いかかりつけ医がいたため受診勧奨につなげられた。
- ・主治医がいない人への受診勧奨が課題。

Q.「受診勧奨モデル」に取り組まれて良かった点はありますか？

- ・来局者様との会話のきっかけとなり、その方の背景を深く知ることができたり、健康相談をされることが増えた。処方せんや薬の購入がなくても来局していただける取り組みになった。

TOPICS

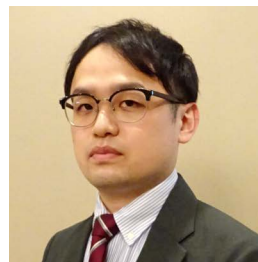
「健康寿命日本一」をかかげる秋田県～生活習慣改善の県民運動を展開

● 生活習慣病の予防

高齢化や人口減少が著しく進んでいる秋田県では、がんや心疾患、脳血管疾患など生活習慣病に関わる疾患による死亡率が高いことが大きな課題となっています。秋田県健康福祉部健康づくり推進課の小松功典さんは、「健康寿命の延伸を実現するには、減塩、禁煙、運動などの生活習慣の改善に取り組み、生活習慣病を予防することが欠かせない。」と話します。

「個人の意思で生活習慣の改善に取り組み、継続させるのは容易ではないため、当県では健康づくりを県民運動として推進しています。企業、民間団体、市町村などが参加する健康づくり県民運動推進協議会の会員は260を超える数となり、健康づくり県民運動も広く浸透してきたと考えています。」

県民全体の健康づくり運動の基本計画となるのが「健康秋田いきいきアクションプラン」です。健康課題と関係の深い栄養・食生活、身体活動・運動、たばこを3本柱として目標を定めています。一人ひとりが実際にどのようなことを実行すればよいのか、



小松 功典 氏

秋田県健康福祉部
健康づくり推進課

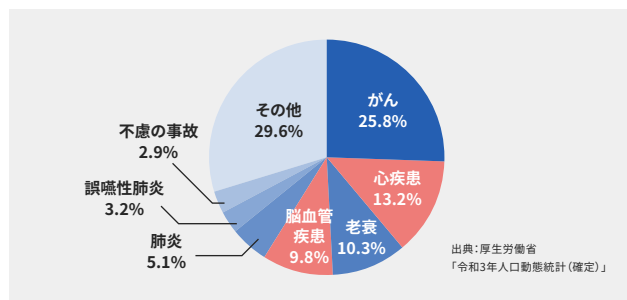
具体的な実践例を示しているのが特徴です。

「環境づくりにも力を入れており、例えば食生活であれば、外食・中食において健康な食事の選択肢を増やせるように、減塩や野菜・果物摂取に配慮したメニューを『秋田スタイル健康な食事』として県が認証する制度なども実施しています。」

循環器疾患の死亡率が高いことから（粗死亡率：脳血管疾患全国1位、心疾患全国11位）、循環器疾患の予防は長年の課題となっており、市町村や職域等で循環器疾患の予防のための保健

指導等を行う保健師、管理栄養士などの人材育成にも積極的に取り組んでいます。

「県民運動の成果が徐々に現れて、秋田県健康寿命は延びてきていますが、生活習慣の改善と循環器疾患の予防は引き続き重点課題です。循環器疾患等の死亡率を低減させ、健康寿命日本一を実現するため、今後とも生活習慣の改善を中心とした県民運動を推進していく方針です。」



COLUMN

日常に潜む危険な不整脈「心房細動」とは

● 心房細動の早期発見・治療

心房細動の症状は動悸、めまい、失神、痙攣、胸苦しさ、呼吸困難などさまざま、全く症状のないケースもあることが知られています。京都府立医科大学循環器内科学不整脈先進医療学講座の妹尾恵太郎先生は、「日本の推定患者数は2030年に108万人を超えると予測されているが(*7)、無症状の心房細動も含めると実はもっと患者数は多いのではないかと話します。

「心房細動による脳梗塞は『心原性脳塞栓症』といって、命に関わる大きな脳梗塞になることが多く、一命をとりとめても麻痺や寝たきりなど重い後遺症が残る可能性が高い。心房細動の早期発見は重要であり、とくに高齢者や不規則なライフスタイルの方は心房細動になりやすいので、軽い息切れや動悸の症状を見過ごさないようにしてください。自分で脈を測ることも大事です。脈の乱れがあったらそれを理由に病院を受診していただく。最近では家庭用の心電計も出ており、スクリーニング用途として有用になってくるのではないかと思います。」

心房細動かどうか調べるには、病院で検査・診断を受けることが必要です。



妹尾 恵太郎 先生

京都府立医科大学
循環器内科学
不整脈先進医療学講座 講師

「病院で精密検査を行い、確定診断をつけて、その後に治療が始まりますから、ためらわずに受診してください。心房細動の可能性の発見で終わらないように、受診していただき診断・治療につなげることがとても重要です。」

心房細動と診断されれば、脳梗塞発症リスクに応じた抗凝固療法や、必要に応じて薬物療法やカテーテル治療が行われます。かかりつけ医とよくご相談ください。

※7 Ohsawa M, et al., J Epidemiol 2005; 15: 194-196

家庭で血圧測定と同時にかんたんに心電図を記録できる オムロン 心電計付き上腕式血圧計HCR-7800T

主な特長

- 血圧測定と一緒に心電図を記録
- スマートフォン健康管理アプリ「OMRON connect (オムロンコネクト)」で心電図波形を解析、心房細動の可能性をお知らせ
- 記録結果を保存、CSVファイルで結果を出力できる

※本製品は医師や医療関係者の指示により購入できる特定保守管理医療機器です ※医療機器承認番号:30400BZX00028000



オムロン ヘルスケア株式会社

グローバルコミュニケーション統轄部 広報部：富田、本田

〒617-0002 京都府向日市寺戸町九ノ坪53 TEL:075-925-2004 FAX:075-925-2348

E-mail: pr-ohq@omron.com ホームページ <https://www.healthcare.omron.co.jp/>

